

自治体を中心に各団体との連携により展開する 「新しい生活の足」としての公共交通の提案



武豊町役場 総務部 防災交通課

武豊町コミュニティバス生活の足を考える会

主査 鳥居 佑多

会長 櫻場 敬信

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

武豊町地域公共交通会議

主任研究員

座長

筒井 康史

伊豆原 浩二

武豊町の地域公共交通の変遷

H15 試行運行開始



利用者不足により事業廃止

H22 試行運行開始



5年間の試行運行期間

H23 乗合タクシー事業開始



バス路線外への交通網整備

H27 本格運行開始



網形成計画作成・路線再編実施

次期計画
ビジョン
作成中

P
(計画)

「武豊町地域公共交通網形成計画」計画期間：平成27年度～令和3年度
将来像：「お年寄り等が、安全に暮らせ、気軽に移動できる生活の足の確保」
⇒交通事故対策及び公共交通の利用促進のため、公共交通を生活の足とする啓発事業の実施



D
(事業)

高齢者の
交通安全
×
公共交通の
利用促進

交通安全意識の向上と公共交通の利用促進を通して、**子どもを含めた全年齢を対象とした利用促進**イベント
「ゆめころんの日 のりものフェスティバル」の実施（平成30年5月6日）

愛知県警ほか、団体・企業と連携して「家族が一緒になって楽しみながら移動環境について考える」
ことを目的としたイベントの開催。保育園児とその家族を中心におよそ350名の来場



コミュバス体験乗車



はたらくくるま大集合



最新サポカー体験



歩行危険シミュレータ



運転シミュレータ

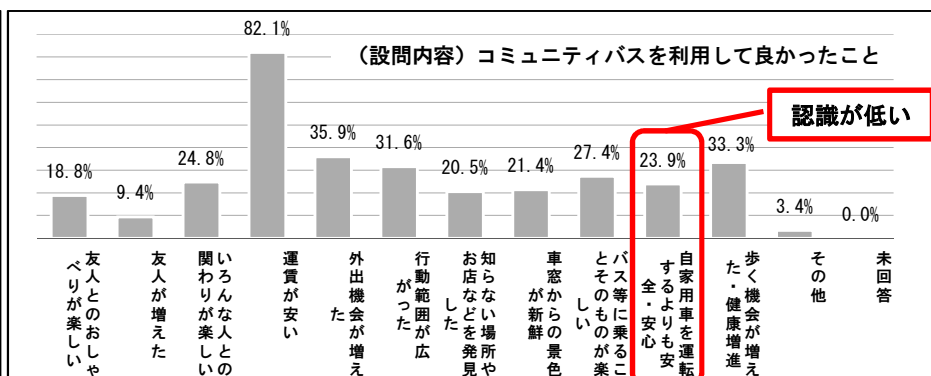
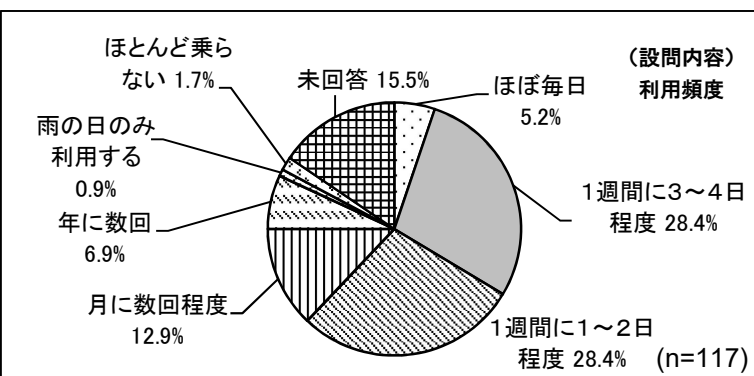
C
(評価)

生活の足として
コミュバスの
利用状況把握

形成計画中間評価としてコミュニティバスの利用者アンケート実施(平成30年10～11月)

利用頻度は、5年前の調査との比較ではあまり変化がなく、利用が定着化してきている。

更なる利用促進にあたり**バスの利用が自家用車よりも安全・安心**につながるという認識が低いことに着目。



※武豊町では「高齢者の運転免許証の返納と高齢者への公共交通利用促進」が最重要事項と判断した

A
(実行)

ターゲットを
絞った事業展開
来場者増加
350人
↓
400人

高齢者にターゲットをおいた「のりものフェスティバル」の実施（令和元年5月6日）

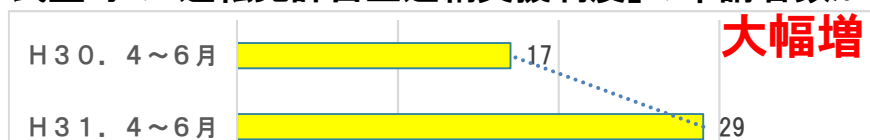
愛知県警ほか、団体・企業との連携に加え、老人クラブなどの地元住民にも協力を頂き事業を展開。
交差点で立哨活動を行う春の交通安全キャンペーンに加え、武豊町地域公共交通会議の伊豆原座長の
「公共交通についてみんなで考えよう！」と題した講演を行い、公共交通の必要性を啓発。

加えて、愛知県警による運転免許自主返納の流れと特典の紹介を行い、高齢者に対するPRを実施。



老人クラブ等と連携し、立哨活動を行った後、公共交通の講演と免許自主返納制度の紹介を聞くプログラム。昨年好評だった事業は継続。

高齢者にターゲットを絞った事業展開を行った結果…
武豊町の「運転免許自主返納支援制度」の申請者数が



交通事故がない「安全安心で住やすいまち」の実現へ

本町は、1,700日以上連続で交通死亡事故が発生していない。

高齢者にとって公共交通が生活の足となる啓発・施策展開を実施。

令和元年10月から高齢者への支援施策内容

町内在住者の70歳以上及び65歳以上の免許自主返納者無料化